

兵庫 県協
兵庫 保医
西宮 芦屋
支部 ニュース

No. 308
2012-11-25

発行 兵庫 県保 険医 協 会
西宮 市石 切 町 十 八 一 八
大 森 内 科 医 院 内
連 絡 先 兵 庫 県 保 険 医 協 会
電 話 〇 七 八 (三 九 三) 一 八 〇 一

第11回胸部X-P読影会 間質性肺炎の診断から治療まで 多数の画像に基づき実践的に解説

10月19日、西宮渡辺心臓・血管センターで、原秀樹先生(尼崎市・はら内科クリニック)を講師に迎え、「通院中の患者に間質性肺炎?」をテーマに第11回胸部X-P読影会を開催。橋野盛彦先生(西宮市・橋野医院)の司会で、講演後には参加者が持ち寄ったレントゲンに基づく熱心な症例検討も行われ、医師や検査技師など12人が参加した。

原先生は、空咳や労作時の息切れなどを理由に受診された患者に対しては、聴診器による診察を丁寧に行い、間質性肺炎に特有の理学所見であるベリクレラ音(マジックテープをはがすような捻髪音)を聴き逃さないようにすることを強調。その後の検査としては、胸部X-P、SpO2やスパイロメトリーなどがあるが、特に胸部X-Pから間質性肺炎が疑われる所見としては、①散在性粒状陰影、②多発性輪状陰影、③異常線状陰影などがあるとして、実際のレントゲン画像を多数示しながら、その特徴などについて具体的な解説を行った。

また、診断後は病院の放射線科に検査予約を入れ、胸部CTの撮影を依頼するなど、病診連携をはかりながら治療を



実際の症例から間質性肺炎のX線診断のポイントを解説する原先生

行っていくべきことや、診察室で患者にCT画像や手書きの図式なども示しながら分かりやすく説明している工夫などについても紹介。さらに、間質性肺炎では合併症により急性増悪を引き起こす危険性があるとして、喘息、COPDなど合併症の治療についても気を配っていくことが大切であると指摘した。

講演後には、参加者が日々の診察で撮影した胸部レントゲン画像を持ち寄って、画像からどのような診断を行うべきかの検討会を実施。実際に遭遇したヒヤリハット事例なども紹介され、参加者同士で疾患の見落としを防ぐための意見交換がなされた。

参加者からは、間質性肺炎における合併症の管理方法などについて質問がなされたほか、「具体的な症例に基づいた講演だったので、大変実践的で参考になった」「ヒヤリハット事例の画像の紹介が大変ためになった」「明日からの診療に役立たい」などの感想が寄せられた。

研究会の前には、西宮渡辺心臓・血管センター循環器内科の岩村世晴先生から、同センターで導入している冠動脈CTについての解説も行われた。



講演後には持ち寄ったX線画像に基づいて熱心な症例検討が行われた

第19回医療過誤訴訟セミナー

【日時】12月8日(土) 15時~17時
【会場】兵庫県学校厚生会館 (JR・阪神元町駅より北へ徒歩1分)
【テーマ】「情報開示とプライバシー、そのジレンマ」
【講師】大阪市・米田泰邦法律事務所
弁護士 鵜飼 万貴子 先生
【司会】西宮市・半田医院 半田 伸夫 先生

※お問い合わせは、協会事務局 岡林・山田・伊藤まで TEL078-393-1803

世話人会だより

西宮・芦屋支部は10月26日に西宮医療会館で世話人会を開催。3人が参加した。

【報告】

- ① 第11回胸部X-P読影会 (10・19)
- 【予定・企画】
- ① 健康と医療について語り合う会 (10・27)
- ② 第24回ガイドライン研究会 (11・30)
- ③ 健康と医療について語り合う会 (12・6)
- ④ 第19回医療過誤訴訟セミナー (12・8)
- ⑤ 第29回漢方研究会 (12・15)
- ⑥ 会員忘年会 (12・29)
- ⑦ Medical English #35 (1月開催予定)

※世話人会の日程は毎月第4金曜日です。支部についてのご意見や企画案などをお寄せください。

健康と医療について語り合う会

医師の立場からの話勉強になった

10月27日、西宮市男女共同参画センター・ウェーブで西宮母親大会連絡会が主催の「健康と医療について語り合う会」を開催。「人生の最期を考えたことはありますか?」死生観、濃厚治療、医療崩壊など」と題して伊賀幹二先生(西宮市・伊賀内科・循環器科)が講演し、市民ら52人が参加した。主催者から寄せられた感想文を掲載する。



伊賀先生の死生観の講演には会場いっぱいの市民が参加した

西宮母親大会連絡会は、西宮市が開いている「男女共同参画ウェーブ第13回いきいきフェスタ」に今年も取り組み、10月27日に、伊賀内科・循環器科院長の伊賀幹二先生を招いた講座を開催。52人の参加で成功裡に終わりました。

参加者の感想では、「救急車を呼ばないというお話に納得」(70歳代)、「患者の立場しか考えていなかった。医師の立場とか勤務条件や国の考えがわかった」(60歳代)、「死生観を考える良いきっかけになりました。感度、特異度の事を再度勉強したい」(50歳代)、「自分が直面しているテーマについて、医師の立場からの話が聞けて大変勉強になった。自らの死生観をまず整理し、身内にも納得してもらえようという説得力を身につけられるよう、今後も学びを深めていきたい」(50歳代)、「最終的には個人の考え方になるのでですね。『知識を持っている方があわてなくていいのです』ということに今日一番感動した」(60歳代)と、たいへん好評でした。他方で、「非常に深刻な問題なので、もう少し時間をかけても良かったのでは?参加者の意見をもっと聞かれるような

芦屋非核平和祈念のつどい

戦後補償の歴史に連なる原発被害

芦屋市非核平和都市宣言27周年・被爆67周年「非核平和祈念のつどい」が10月13日、芦屋市の上宮川文化センターで開



開会挨拶する幸原先生



脱原発の曲を歌う橋本氏



講演する直野先生

催され、130人が参加した。

幸原久・実行委員長(協会幹事・支部顧問)が開会挨拶し、記念講演は直野章子・九州大学准教授が「被ばくと補償 広島、長崎、そして福島」と題し講演。ミニ・コンサートではシンガーソングライターの橋本美香氏が「原発さえなければ」など反戦・脱原発の曲を披露した。

講演で直野氏は、「原子力損害の賠償に関する法律」(「原賠法」)には、「原子力事業の健全な発達に資することを目的とする」と明記されており、被害者の損害賠償よりも原子力産業推進を重視する内容となっていることを指摘。原発被害者に受忍を課す国の政策は、戦争に対して非戦闘員には被害の受忍を強い続けてきた戦後補償の歴史から連なっていると述べた。

また、放射線と健康被害との因果関係は証明することは困難ゆえに、広島・長崎の被爆者が原爆症認定裁判で争ったように、福島原発の被害者も補償の対象から切り捨てられる可能性を危惧した。

会員忘年会のご案内

日時：12月29日(土) 18時～

会場：『木曾路』西宮店

※阪神西宮駅から北東へ徒歩5分
JR西宮駅から西へ徒歩10分

定員：30人 先着順・事前申込制

会費：6,000円(当日徴収します)

※フリードリンク付き



第29回漢方研究会

【日時】12月15日(土)16時～17時15分

【会場】西宮神社会館2階「福・寿の間」

【テーマ】「急性期症状における漢方の可能性

～いかに西洋薬と組み合わせるか～」

【講師】東灘区・田中内科循環器内科クリニック

田中 健二郎 先生

雰囲気づくりもほしい」(80歳代)との意見も寄せられ、今後の企画に生かしていきたいと思えます。

講師紹介やレジュメ作成に保険医協会からご助力いただいたことに、紙面を借りてお礼申し上げます。今後ともよろしく願っています。

【西宮母親大会連絡会・久保美枝子】